

【座談会】

生成 AI 時代の職業会計人が備えるべき スキルセットとマインドセット

2023 年は生成 AI、特に Chat GPT の発展によって記憶される年となりました。生成 AI の発展は確実に職業会計人に大きな影響を及ぼすことになるかと予想されます。そうした状況の中でこれから職業会計人が備えるべきスキルセットとマインドセットを巡って本学卒業生で税理士として活躍されている戸村涼子さんをお迎えして、座談会を行いました。

戸村 涼子 (税理士・戸村涼子税理士事務所代表・LEC 会計大学院 2014 年度修了)

山本 宣明 (LEC 会計大学院 教授)

横井 隆志 (LEC 会計大学院 准教授)

開催日／2023 年 9 月 19 日 (火) Zoom 開催

横井 現在、生成 AI 含め IT の世界は激動の時代というフェーズに入ってきています。本日は本学修了生で税理士の戸村さんをお迎えしました。世の中、まだまだ IT や AI に尻込みする方が多い中で、戸村さんは非常に前向きに積極的に税理士として IT を活用されています。ご自身でも「もしかして私ってオタクかも？」という発言が出るほど、私たちからみて非常に楽しみながら取り組まれているように感じます。

山本 戸村さん、ご無沙汰しております。本日はよろしくお願ひします。戸村さんは年 1 冊のペースで書籍を執筆されていたり、

SNS での発信も非常に積極的です。YouTube でもチャンネルを持たれていて、私も Code Interpreter (現在の Advanced Data Analysis) の動画を拝見しましたが、非常に勉強になりました。

横井 戸村さんは 2012 年 10 月に本学入学ですので、在学されていた時期からもう 10 年経ちますね。2014 年に修了されましたが、簡単にここまでの軌跡を振り返っていただけますでしょうか。

戸村 本日はよろしくお願ひします。在学からもう 10 年とは！早いですね。LEC 会計大学院修了後はいったん税理士法人に入

り 2 年間ほど勤務しました。その後、独立開業したのは 2016 年です。



税理士 戸村涼子氏

横井 大学院在学中は一般企業にご勤務されておりましたよね。

戸村 はい。2016 年に開業して今に至りますが、まだ何とかなっている感じです (笑)

山本 一人税理士、というところにポイントをおいて仕事をされている戸村さんのスタイルが非常に良いなど感じる方も多いと思うのですが。開業されてそのスタイルを堅持されているのは、どういうお考えやこだわりがあるのでしょうか。

戸村 一人にこだわりがあるというよりは、周りに人がいて、その中で自分を発揮していくのが難しく……。一人で仕事をするスタイルの方が自分自身に合っているんですね。開業しても誰も雇わず一人で仕事をしているのは、組織から逃れて本当に一人で働きたいから、という理由です。

山本 本学修了生の場合、修了後も引き続き同じ職場に勤務して役職が上がったり、その事務所の所長になったりというパターンか、独立開業して早速何人か雇って……。というパターンが多いです。戸村さんは一

人開業という路線を積極的に走っているなと感じます。

戸村 たまたま自分のやりたいことが、あまり周りがやっていないことが多くて……。なのでなんとなく目立っちゃっているのかなと思います。

山本 意識されていないかもしれませんが、周りから見えている風景としては、とっても素敵なお税理士さん、という感じです。横井先生ともよく話しますが、IT に紐づけて発信をされている税理士の先生というのはそんなにはいないですね。

戸村 そうなんです。実は、私自身 IT の知識がものすごくあるわけではないんですが、周りになかなかいっちゃらないので少し発信するだけで目立てるのかもしれないですね。

山本 Code Interpreter の動画の中の Python の部分では「私は初学者で……」というような言い回しがありましたね。初学者だからこそ、わかりやすく興味を引く内容でお話されていると感じます。

戸村 最近は ChatGPT の講演依頼が多いです。

山本 IT に対する関心や興味は昔からお持ちでしたか？

戸村 実家に Windows95 のパソコンがあったので、その時から遊びで触っていました。中学生～高校生くらいの時期にインターネットを自分で引いて繋げたり……。昔から好きでしたね。

山本 横井先生も同じですか？

横井 私も Windows95 が出たのが中学生の頃で、父親は特にパソコンを使えるわけではなかったのですが、とりあえず買ってき

てみたよ、と。なので家にパソコンがあった環境でした。

戸村 パソコンを使って勉強するというよりも、お絵かきしたり音楽を作ったり、遊びで使っていた感じですね。

山本 昔から IT への興味がベースにあって、税理士という職業との出会いがあって、それが相まっているという感じがしますね。



LEC 会計大学院教授 山本宣明

戸村 税理士自体への興味も、大学の時に簿記を勉強したことがきっかけでした。「簿記、すごくおもしろい!」と思いまして。結局私は自分が面白いと思ったことしかやってきていないし、極められないという感じがします (笑)

山本 本当に素晴らしいことだと思います。

戸村 独立したばかりの頃は「IT を強みにするぞ」という感じではなく、きた仕事は何でもやっていました。その中で「やっぱり自分は IT が好きだな」と気づき、クラウド会計を利用したり、暗号資産を買ってみたり、ChatGPT も周りより早く使ってみたり、とじていた中で、なんとなく強みが見つかった感じです。

横井 RPA もですよ。

山本 新しいトピックにどんどん関わっていく、その点のアグレッシブさが他の税理士の先生方とは違う感性なのかなと思います。

戸村 他の税理士の先生方とエネルギーは変わらないと思うんです。ただ自分は方向が外れちゃっているようなところがあって (笑)

山本 今話題に出たクラウド会計や暗号資産、RPA、ChatGPT というようなキーワードが学内で飛び交うことがまだあまりないです。個人的にはすごく楽しい世界だと思っているのですが。まだまだ紙的な世界観が残っているなど感じることもあります。

戸村 紙への信頼というのは本当に根強いなと思います。ChatGPT の講演を担当した時、講演の資料を印刷します、と言われ困ってしまいました。この分野はとても進化が早く、例えば今 Code Interpreter も名前が変わっていますよね。Advanced Data Analysis に変わったと思うのですが、そんな感じで名前も変わるし画面も変わるし、できることも変わるので、資料を印刷して渡すより講演中に PC を触りながら実際にいろいろ試していただきたいのです。ですが実際には PC 持参の方はほとんどいないんですよ。

横井 私は 2011 年度から本学で IT リテラシーの授業を担当していますが、当時、ほぼ全ての学生が PC のキーボードの横に必ず電卓を置いていたんです。Excel で出た計算結果を電卓で検算するという衝撃的な光景を目の当たりにしました。電卓で検算しないと安心しないんだな、染みついているものがあるんだなと感じたことが蘇ってき

ました。

戸村 自分の手で確認しないと信用できないのでしょうね。

横井 資料はプリントアウトして、そこに書き込みをしながらじゃないと頭に入る気がしないというか・・・



LEC 会計大学院准教授 横井隆志

戸村 そうだと思います。私の周りの一人税理士さんは IT に強い方ばかりなのでそれがあたりまえのような気がしていましたが、セミナーでの様子を目の当たりにすると、やはりマス層としては IT のことを全然知らない世界が広がっているんだと思いますね。

山本 ChatGPT も、まだ使ったことがないという人がマス層に該当するかと思います。使ってみると非常に可能性を秘めているし、ポテンシャルがあると感じます。Code Interpreter から名前変わったの Advanced Data Analysis、あれなんかは明らかに GPT3.5 と比較すると異質な世界に入っちゃったなという感じですね。ファイルをアップロードして読み込ませて処理した結果をファイルでアウトプットできるのか・・・、すごい世界がきたと思いますね。

戸村 IT でできることを知ることも大事ですし、限界を知ることも大事だと思います。「ChatGPT に税金計算をお願いしてみた！」(<https://www.youtube.com/watch?v=Vo-V7UFrOWU>) という動画を公開していますが、最初は日本の税制の細かい部分を理解していないので、例えば「このくらいの年収の方の所得税はどのくらいですか」とやってもらっても、給与所得控除がなかったり基礎控除がなかったり・・・。そこからどんどん知識を与えていく必要があります。タックスアンサーからコピー&ペーストして知識を与えてあげると、「あ！申し訳ありませんでした、もう一度計算します」と、ものすごい速さでまた計算してくれます。あまりわかってはいないけれど、指示を出すとものすごく優秀な人、人間ではありえないほど高速な仕事ができる人、みたいな感じでしょうか。

山本 高速な仕事ぶりという面では、3.5 でもすごく早いなと感じました。ちょっとありえないスピードでアンサーが出ますね。更に知識をプラスしてあげると、それに沿った形で仕事をしてくれます。

戸村 あいまいな質問をして全然答えてくなくて、「全然使えない」と思う人もいると思うんですね。活用するのもコツがあるし、限界もあるから、たくさん触らないとわからないことも多いですね。

山本 触らないとわからないのは真実ですね。

横井 戸村さんの SNS への投稿で、ChatGPT に減価償却をお願いしてみたら定率法を理解していなかった、というのがありましたね。そこでもやり直させて、答えを導き出させていました。その投稿を見て、今回

の座談会をお願いしようと思ったんです。

戸村 最初、残存価額をマイナスにしたんですよ。なので「定率法というのは未償却残高に償却率をかけて計算します。保証率というものがあって改定取得価額はこうこうで・・・」という知識を与えたら「大変申し訳ございませんでした」と、またものすごい速さで計算してくれて、最後は完璧でした。しかも Excel ではぱっとシートまで作成してくれ、ものすごく優秀なアシスタントのようです。

山本 戸村さんの動画の素晴らしさは、税理士や会社の経理担当者の立場で、初歩的な、ファーストステップでまず取り組んでみたらどうなるか、ということを示してくれ、そこまでできるんだ、という驚きを与えてくれるという意味で、皆さんすごくインパクトを感じているのではと思います。

戸村 エンジニアが解説している動画が多く、自分の業務とどう結びつけるかが想像しにくいなと思っていました。私は税理士として、税理士業務でどう使うかというイメージを具体的に持ってもらうために動画を収録しているので、その点新鮮なのかなと思いますね。試行錯誤して、うまくいかなかった場合もその過程を普通に公開していますので。

山本 そこが面白くていいんですよね。そういう試行錯誤をするんだ、というところが非常に面白いです。

さて戸村さんといえば、デジタル資産や電子商取引、クラウド会計や電子帳簿保存法など、これまで単著で6冊のご著書を出されています。いずれも結構大きなトピックで、先進的な内容です。戸村さんから見

て、これからの税理士業界はどう動いていくと考えられていますか。

戸村 二極化が進むような気がしています。IT を活用する層はどんどん活用しお客様も IT に理解のある方が自然と集まる一方で、お客様も税理士自身も IT を敬遠してしまう層は、昔ながらの記帳代行で、紙でも全然 OK です、という感じで仕事を受けることになると思います。どうしても二極化が進むような気がします。

山本 ちょっとしたグラデーションはあれど、結構、極で大きく分かれていく可能性はたしかに感じますね。

戸村 今の時代であればまだ IT アレルギーも許される雰囲気ですが、これからはもうそんなことは言っていられないというか、IT も AI も一般教養のようになると思うので、そこで置いてけぼりになってしまうと、自然と仕事に限られてきてしまうかもしれません。

山本 Excel だけでいっても、これまでは関数も自分で選択したり自分で組んだりしていたわけですが、ChatGPT が突然登場して、きちんと指示さえすれば結構なことができてしまう。

戸村 そのとおりです。Excel 作業でも、フィルターをかけてコピー&ペーストして、という作業を延々とやる人と、「プログラムを VBA で書いて」と指示を出してパッと済ませてしまう人との差はものすごいと思うんですよね。プログラミングは ChatGPT の一番の使いどころです。Google 検索しても今まではドンピシャなコードは出てきませんでしたが、ChatGPT に聞くとコピー&ペーストするだけで出てきたりするので、本

当に一番の使いどころだと思います。

山本 そうなるとプログラマーの仕事も変わっていきますね。

戸村 業務の全体像を俯瞰しながらどう活かすか、という発想ができるのは人間だけだと思うので。細かいコードは全部 ChatGPT をお願いして、そういう発想の仕事することになると思いますね。

山本 新しい時代のリテラシーがまさにそこにあるのかなという気がしますね。

戸村 そうですね。プロンプトを書くのもプログラミングを書くのも、ワークフローなどきちんと事細かに指示をしなければちゃんとは作ってくれないので、そういうプログラミング思考のような考え方、漏れなく構造的に論理的に考える力というのはますます重要になるような気がしています。

横井 きちんと指示をして書かせることができる、という能力ですね。

山本 横井先生の IT リテラシーの授業内容は、劇的な影響を受けますね。

横井 相当アップデートしないとイケません。面白いフェーズに入ってきたなと思います。きちんと指示をすれば完成型に近いものが出てくるという状態で、ではその土台として何をおさえるべきなのか。学部の授業でパソコンの基礎を学びましょうという時に、音声入力が優れているからタイピングってどうなの？みたいな考えも出てきていますね。Excel でも自然言語で指示をすれば関数は使わなくていいんじゃない？みたいな。とはいえ先ほど出たようにプログラミング思考や、論理的に展開する能力がないと活用のしようがない。基礎をおさえながらもそういう力をどう養成していくのか、非常

に悩んでいます。

戸村 自然言語で投げかけてコードが出てきて、それを貼り付ければ確かに動くと思いますが、結局エラーが起きた時は困りますよね。やはりある程度の知識がないと。少なくともその変数の意味や繰り返しの処理など、プログラミング配列やプログラミングをやる上で必須となる知識がないとエラーを解消するためのとっかかりが見つからない気がします。あとは単純にデータベースの知識がないと属性、プロパティも理解できないし、データ型を知らないと処理がわからないと思いますね。

山本 最近、ChatGPT が非常に注目されている中で、ある経済雑誌の特集で ChatGPT の使い方、実例をたくさん紹介している記事がありました。業界別にこういう使い方がある、こういうプロンプトがある、みたいな特集が組まれていて、その編集者が SNS で「もうかつてないほどに売れて、ありがとうございます」と呟いていました。今の GPT4 でこう入力すればこの程度のアウトプットは出るということは確かでしょうけど、あまり金科玉条のように崇め奉ったら危険だなとも思いました。大事なものは、何ができるのかが大枠で分かっていることと、やらせようとしていることについての全体像がイメージされていること。場合によっては知識を足してフォローしてプロンプトをどんどん変化させながら、自分が得たいアウトプットに向けてまさにプロンプト（促進）してあげることだと思うんです。そういうことを総合的にできるようになるしか道はないのかな、と感じています。確かにデータの属性や型がある程度分

かっていないとお話にならない、という意味では、従来の IT リテラシーが全く無用になるということではなくて、むしろベースとしてはとても大事で、その上で、今までハードルを感じていた部分が超えやすくなっているということ認識して使う、ということなんだろうなと思います。

戸村 元々基礎レベルの知識がある人がその上までいく、というのがとてもやりやすくなったような気がしますね。どうしても今まで検索してもドンピシャで出てこなかったのが、「ああ！ここか！」というのが ChatGPT だとわかる。基礎を勉強している人だったら勘所があるので、基礎はやはり必要ですね。

山本 全体的にどういうことができるか、という、むしろ俯瞰的な知識のほうが重要性が高まるかもしれませんね。

戸村 そう思います。狭い世界しか見ていないと過度な期待を描いちゃうような気がして。自分のアシスタントとして使うのはありますが、それを崇拜するのもおかしいなと感じます。

山本 個人的には、私が担当する財務分析の論文指導で使ってみようかと考えています。財務指標の分析です。データを読み込ませてこの財務指標だったらどう考えますかと問いかけながら、それこそずっと試してみたりしています。その中で感じるのが、意外と端的な質問を繰り返して徐々に段階を踏ませてアウトプットさせるやり方だと、いい洗練度合というかアウトプットの洗練ができるなと感じています。

戸村 GPT4 に変わってからすごく進化した気がします。本当に人間と対話をしている

かのような自然なやりとりで、過去に話したことは全部蓄積されているので、前提条件を言わなくても「それはわかっています」くらいな感じで答えてくれ、その辺の進化が非常に対話型になっている気がします。自分が良い質問をすればどんどん良い回答を返してくれますね。

山本 全くそのとおりで、対話型というのが 3.5 に比べてかなりバージョンアップしていると思いますね。先ほどの経済雑誌の特集ですと、結構プロンプト決め打ちで「こういうプロンプトを入れればこういうアウトプットが出てくるはずだからこういう型をもっておけ」というようなことが書かれているのですが、そうではなくて、まず質問してそのアウトプットを見ながら修正させていくことによっていいアウトプットに行き着くことができるのではないかと感じています。

戸村 プログラミングも微妙に全部違う回答なので、あれ？前に教えてもらったのは動いたのに今回動かない、ということもあります。なので決め打ちのようなものでもない気がするんですよ。こう聞いたらこう返ってくると決まっているのではなく、こちらからどんどん引き出していくものだと思うので。全員が同じアウトプットができて同じ成果を得られるとも限らないものですから、やはり指示の出し方がすごく大事。全体を理解した上で指示を出していくということが大事です。

山本 論文指導でどう使うか。難しいなと感じています。

戸村 私なら絶対使いますね。少し前に試しに、税大論叢の論文について要約の指示を

出してみたんです。「あなたは大学院で税金を研究する大学院生です」と役割を決め「形式は段落形式で、小学生でもわかるように、5つのポイントに絞って」と指示を出してその論文をペタッと貼り付けてみました。そしたら本当にわかりやすく、条件に沿った形式で回答してくれました。その論文の全部が必要とはわからないから、最初にちょっと要約してもらって、関係がありそうだったらしっかり読み込むとか、そういう使い方だったらいいのかなと。

山本 そういう使い方もそうですし、今、我々で議論しているのは、判決文の要約ですね。

戸村 なるほど、それもできそうですね。

山本 それなら誰がやっても同じようになるんじゃないか、みたいなのがあるところがあって。そうであれば、それこそ GPT で一番得意な適用で一番使える機能といえるかもしれない。

横井 役割を与えるというのは、非常に精度が上がることに繋がりますね。

戸村 そうなんです。前に Advanced Data Analysis でやったのが、「G20の国々の消費税率を教えてください」「棒グラフにしてください」「あなたは各国の税金のリサーチ担当です。出てきた結果について東南アジアと欧米を比較して言えることを教えてください」と。それでやってみたら結構いい感じで。

「棒グラフで」「パステルカラーで」、国名は日本語で出すと文字化けしてしまうので「英語で出してください」と。シナリオとしては、「その棒グラフを示した後にデータから考えられる意見を次のポイントを押さえて教えてください。対 GDP 比率、欧米とアジアを比較・・・」みたいな。結構いい感じの答えを出してくれすごいなと思いましたね。

棒グラフ作成 : Advanced data analysis

#依頼内容
g20の国々の、消費税率を#条件に基づいて教えてください。

#役割
各国の税金のリサーチ担当のつもりで教えてください。

#形式
税率の高い順に、棒グラフにしてください。

#条件
・国名は、英語に表示してください。
・棒グラフの色は、暖色、パステルカラーをお願いします。

#評価方法
なし

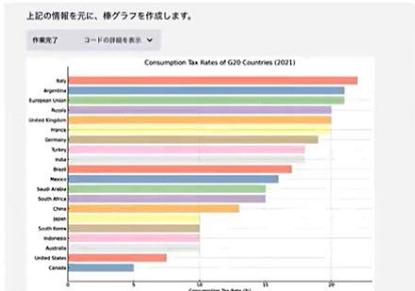
#シナリオ
棒グラフを示した後、データから考えられる意見を、次のポイントを押さえてください。
・対GDP比率
・欧米とアジアを比較して、分析してください。

棒グラフなど、視覚化も可能。
色や、出た結果に対する意見も
求めることができる



上記の情報を元に、棒グラフを作成します。

作業完了 コードの詳細を表示



以上が、2021年時点でのG20の国々の消費税率を示す棒グラフです。

分析:

- 対GDP比率:**
 - 消費税率は、国の経済や福祉政策、インフラの資金調達方法などの多くの要因に影響されます。高い消費税率を持つ国々は、一般的に高い公共サービスの水準や福祉支出を持つ可能性がありますが、一方で、低い消費税率を持つ国々は、他の税収源や資金調達方法に依存している可能性があります。
- 欧米とアジアの比較:**

山本 すごいですね。こういうことなんですよね。

戸村 たぶんこういうのを作っているのは今アナリストさんだと思うので。

山本 たたき台としても、まずこのレベルのものがパッと出てきちゃうというところがやはりすごいですよね。

戸村 そうなんです。たたき台として使うんだったら全然ありかなと思っていて。その他にも、「税理士事務所のペーパーレスについて教えてください」というお題で、「ペーパーレス推進担当になったつもりで」

「最後に「どれを選択しますか」と私に聞いてください。私が答えたらその選択について評価してください」などとやると、星印の数で評価された選択肢が出て、「どれを選択しますか？」と聞いてくれます。私が「では 3 にします」と答えると「オンライン会議の導入を選択しましたね」と、その答えを評価してくれて・・・、なんかすごく楽しいです。



提案：税理士事務所のペーパーレス

#依頼内容
税理士事務所で考えられる効果的なペーパーレスの手法を#条件を踏まえた上で10つ挙げてください。

#役割
税理士事務所のペーパーレス推進担当になったつもりで答えてください。

#形式
リスト形式で出力してください。

#条件
#評価方法でそれぞれの手法を評価する。

#評価方法
ペーパーレスの効果の高いものから5段階評価する。

#参照知識
なし

#シナリオ
10つ挙げたあと、「どれを選択しますか？」と私に聞いてください。
私が答えたら、その選択について評価をしてください。

- ・依頼内容
- ・役割
- ・形式
- ・条件
- ・評価方法
- ・シナリオ

を#などを使って構造的に指示するとわかりやすい。



山本 勝手に世界が出来上がっていく感じですよ。

戸村 そうなんです。そして結構いいことを言うんですよ。クライアントの対面会議にかかる交通費や時間なども出してくれたり。

山本 ポイントをおさえている感じがします。

戸村 皆でアイデアを出し合って、という前に、まずは ChatGPT に聞いてみたほうが早いと思ったんですが、どうでしょう。

山本 まさにそうですね。ChatGPT をどういう存在として理解しますか、という時によく出てくるのが「優秀な秘書です」と位置づける場合が多いようですね。GPT ではないのですが、AI を使って話題になったも

のとして、将棋や囲碁の対局で、人間対 AI が結構フィーチャーされるんですが、そうではなくて、実は隣でダブルスといって、人間と AI が組んだ 2 チームで試合をするというような話が実は同じラインであるそうなんです。従来は人間だけで対局していたところに AI が加わりサポーターで入って、それで試合するとどうなるか、やはりすごいレベル感の試合になっていくという話だったんですよ。AI と人間が対決するというところに目がいきがちなんですが、そうではなくて相互に組んで進んでいくというイメージが大事ではないでしょうか。そういう意味では、まずは GPT に聞いてみて、という使い方もありだろうなと感じましたね。

戸村 Microsoft が今度出す Copilot もその名前からして副操縦士ですから、まさにそういう意味合いだと思うんですね。それを紹介している方も、責任 AI と言っていて、人間が主体であり、AI は副操縦士なんだということを強調されていました。やはりそういう使い方がメインだと思うのですが、拒否反応が先にきてしまっている人は「AI が仕事を奪う」という発想に行きがちですよな。

山本 そのへんも二極化というのは起こるのかもしれないですね。AI を信頼して使っていける人は相互作用でどんどん進展すると思いますが、対立でとらえてしまうと一つも進まないという世界があるのかな、と思います。新しい時代の IT リテラシーが非常に求められるところではないかと思えます。

戸村 マインドセットみたいな感じでしょうか。IT とか人工知能に対する考え方から変えることが必要かもしれません。

山本 全ての物事はスキルセットとマインドセットがセットにならないと効果が発揮されないの、マインドセットが伴うかどうか、そこが整えられるかどうかということが重要かもしれないですね。戸村さんのような税理士の先生が本学の修了生としていらっしゃるのには非常にありがたいです。今後どう税理士業界が変わっているのかというところですが、結局は AI 側に寄らないとそもそも仕事が回らないということが出てくる気がしますよね。

戸村 そうだと思います。今でも人材不足で、どんどん高齢化も進んでいますし。

山本 業務量から考えても、紙でやっていることの非効率さというのはやはり想像を絶するところがあります。

戸村 インボイスが始まり、あれを紙でやるというのはとんでもない業務量になってしまっているので、ちょっとありえないですね。

山本 そうなると、ほぼ強制的に電子処理に慣れていかないといけなくなりますね。

戸村 ですが、デジタルや IT って、まだまだ拒否反応が強いところがありますね。それはどうしようもないのかな。やはりマインドセットですね。

山本 本学の教育もどんどん変わっていかねければと思っています。横井先生は IT リテラシー担当なので、一番アンテナを張って、次こういのがくるぞ、とそんなアナウンスがあったりするのですが、これからの税理士を仮に戸村さんが養成する立場になるとした場合、会計大学院でこういうこ

とを学べたら面白いかなというようなものはありますか。

戸村 ChatGPT のセミナーをやっても、誰も ChatGPT を触っていないということは、皆さん困っていないのかなと思って。私は面倒くさいことが大嫌いで、しかも一人でやっているの、自分の好きなことをやるためには IT 化はいくらでもするし、AI にも頼りたいし、というマインドがあるのですが、意外と皆さん課題を見つけられていないのかなという気がして。課題を見つけるということは人間にしかできませんよね。「面倒くさい」と思うことが皆さんないのかなと思ったんです。ChatGPT ってなんかすごうだから勉強してみようかなという感じで参加されているだけなのかなという印象を受けました。本当に IT 化したいんですよ、という方もいるんですが、では具体的に何を指すのか、IT 化して空いた時間はなに力を入れるか、その事務所のビジョン、先を見据えたビジョンがあまり感じられない気がしています。まずは課題を見つけることなのかな。課題探しの授業とか面白いかもしれませんね。「これが面倒くさくてしょうがないんだ」、「これは絶対にやりたくないんだ」みたいな。

山本 たしかに、課題を感じない、課題を見つけられないというのは往々にしてあるような気がしますね。皆さん、最後は人力で、とにかく根性論で乗り越えればいい、という気持ちがどこかにあって。そうではなくて、毎日たっぷり睡眠時間を確保することが大事ですよ、という。そこを最大限確保するためにはどうするか、というマインドセットが必要なのかな。昭和の根性論のよ

うなものがどこか残っていると課題を感じながらも最後は力技でなんとかすればいい、その最後の精神論のようなものがどこかにあって、それが意外と進化を妨げているというか。

戸村 そうだと思いますね。私のように、面倒くさいことは一秒もやりたくない、みたいな人間は意外と少なく、ひたすら続く入力作業にも耐えられて、疑問に思わない方が多いのかもしれない。

山本 「マネジメント・シミュレーション」という授業があるのですが、「業務の効率化を頑張りたい」というレポートが毎回出てくるんです。多分、ここ 10 年 15 年、同じレポートを見ている気がします。皆、業務の効率化について課題は感じているんだけど、毎日出勤したらきっと目の前の入力作業に没頭してしまう。没頭して、夜遅くなって、もっと効率化しなきゃいけないという思いはあるけども、でも翌朝また入力に没頭しての繰り返しで。そういうパターンは多い気がするんですよ。とても処理できないからアルバイト雇います、とかそういう話を書いてあったりとか。とりあえずあなただけは強制的に 1 か月間休みをとって業務設計から全部見直したら世界が変わるはず、と思いながら。そういう発想にいく前に、とにかく目の前の処理に集中することが一種の慣性で沁みついているというケースが多い気がしますね。割合はどの程度かわかりませんが、レポートを見ているとやはり同じパターンの中にはまっているなと感じます。戸村さんがおっしゃった、課題は感じているんだけど感じ切れていないというか。

横井 情報リテラシー教育に携わって 15 年ほどになりますが、当初から「面倒くさいことが嫌いな人ほど IT は伸びますよ」と話をしていました。IT 革命といわれていた頃のリテラシーから AI 時代に至るまで、本当にそれが一番のモチベーションになりうるんだなと思いましたね。面倒くさいと思いつつも、仕事だからと繰り返されてしまう人と、本当に 1 秒もやりたくないし絶対改善したいんだというところまでいくかどうかの、この違いですね。この一歩超えようとするかどうかで IT の活用の世界観が違ってくるんだな、と今まさに 15 年前からのことがつながった気がします。

戸村 以前企業で働いていた時、私がプログラミングをして早く仕事を終わらせると、ずるしていると思われたりして……。思考しているだけなんですけどね。何かの本で、残業して頑張る怠け者、みたいな表現がありました。思考を怠けている人、という意味らしいのですが、人力で残業してやれば確かにいつかは終わるけど、それは思考していないよね、ということですよ。

山本 成果をどこに求めるのかがすごく大事ですね。ひたすら入力作業をして何とか申告書を作り上げることが全て、というところから、そうではない価値観の世界にいかなくちゃいけない。そうなった時に、入力作業はいったん全てなくすくらいの勢いで思考を飛躍させる必要がありますね。マインドセットで重要なのは、実は、頑張らないということのはず。頑張らないためにはどうするかという方向にもっていくべきです。「頑張る」というワードが出た瞬間、思考

がストップしているし、人力で何とかするという方向にいつてしまうわけです。頑張らないことが時代のキーワードかもしれないですね。

戸村 本当にそうだと思います。私はいかに頑張らないでやるかということしか考えてません（笑）

山本 そういう思考の方が税理士の世界でも高い成果を出すようになっていくのではないのでしょうか。戸村さんのように、時代にフィットした形で発信されている方はほぼいらっしゃらないですし、非常に高い成果を出していらっしゃると思いますね。

戸村 ありがとうございます。頑張らないところと頑張るところをすごく区分している、ということはありません。無駄な作業は徹底して削り、その分、自分の強みを見せること、発信、アウトプットをきちんとしていくという時間にあてたいと思っています。お客様が困ったときにすぐに対応できるような状態にいつでもしておきたいです。

横井 正しい IT の使い方といえますね。人間であるために、というか。

戸村 そうですそうです！私は暗くなったら仕事しないと決めています。人間らしい暮らしをするのが好きで、毎日自炊しますし掃除もします。そういう時間を取りたいから、1 秒たりとも時間をかけたくないことに関しては、すごく勉強して AI にお任せしちゃう、という感じですね。

山本 今の戸村さんの言葉は、男女関係なく「生き方」としてのメッセージですね。

戸村 人間らしく生きる、ということです。

山本 映画の題名になりそうですね。

戸村涼子税理士事務所 Web サイト

<https://tomurazeirishi.com/>

ひとり女性税理士チャンネル

<https://www.youtube.com/@msryoukokko>

Ryoko Tomura's Blog

<https://rtomura-taxacc.com/>